第２９３９回 例会　令和６年８月８日（木）

出 席 委 員 会 委 員 長	早川　比呂太
会　員　総　数	１８名
本 日 の 出席者（免除者）	１４名（３名）
本 日 の 出 席 率	７７．７％

会 長 あ い さ つ

会長　鈴木泰光 君

先日、８月２日　長田治君（89 才）がご逝去されました。1980 年入会　44 年３か月在籍でした。長田さんは、いつも笑顔でニコニコされてる方で、とても明るくユーモアにあふれる方でした。ゴルフがとても上手で、一昨年まではゴルフ例会にも参加していただき、大変元気でした。去年は一緒に旅行にも参加して、私はいけなかったですけどまだまだ元気で長生きされると思っていました。MR. 西尾一色ロータリーと言っても過言はないと思もいます。西尾一色ロータリーにとっては、大変大きな大黒柱がいなくなりとてもショックでなりません。奥様が亡くななられても、元気に例会や年末の家族会に出席されているのが思い出に残ります。今でも、亡くなられた実感がわかず、ひょっこっと例会にきて、元気な姿を見せてもらえる気がします。長田さんのためにも、クラブの存続させ会員数を増やして、楽しく、元気な一色ロータリークラブにしていけるように、努力していきたいと思います。

今週のスマイル

親睦委員　尾﨑三枝子 君

鈴木泰光君　本日の早朝例会の会場を提供して下さり、普元寺様ありがとうございます。今日よろしくお願い致します。

牧野美恵君　久々に朝こんなに早く起きました。お盆の前のこの時期にお寺でお話がお聞き出来てありがたいです。

鈴木茂朗君　今年も25回早朝例会に出席出来てうれしいです。

渡邉　徹君　早朝例会おはようございます。本日もよろしくお願いします。

鳥居萬里君　早朝例会朝早いのが気にならなくなりました。

神谷正康君　毎年普元寺さんにお世話になります。

早川比呂太君　長田さんのご冥福をお祈りいたします。

池田榮三君/田中三千雄君/藤井知明君/尾﨑三枝子君

１１件　１６，０００円

本 日 の 卓 話

早朝例会

普元寺　6時00分～

西脇顕真 住職

昨年は四苦八苦の中の死苦のお話でしたが、今年はその続き、死苦の二回目をお話しします。

皆さまは山岡鉄舟(やまおかてっしゅう)という幕末明治の政治家、剣の達人を御存じでしょうか。ある時、山岡鉄舟のところに鳴海の友人から手紙が来たそうです。「鳴海のほうの潮干狩りもちょうどよいころとなりましたので、お弟子さんをつれてお出かけください。お待ちしております」とのことでした。それで鉄舟は弟子を連れて出かけました。その頃の鳴海の潮干狩りはアサリを取るのではなく、夜、潮が引いたところへ、松明(たいまつ)と手網を持って腰に竹籠をぶら下げて海に入る。松明(たいまつ)の灯りを慕って魚が集まってくるので、それを手網(てあみ)ですくうことを潮干狩りと言ったそうです。ぴちぴちした魚が面白いように取れたそうです。あまりに面白いので弟子たちは我を忘れて夢中になって魚を取る。どれくらい経ったでしょう。ふと我に返るといつのまにか潮が満ちてきて突然雨が降り出した。気がついて周りを見ると、何と、どちらが陸でどちらが沖かまったく分からない状態になりました。弟子たちは「山岡先生、山岡先生・・」と泣き出しそうに騒いだ。すると鉄舟が「静まれ！！」と一喝し、目を閉じて全身を耳にしました。しばらくの沈黙の後、浜辺のほうで浜千鳥の鳴き声が聞こえました。「あちらが浜だ」といって浜千鳥の鳴く方へ一目散に逃げかえったのです。「鳴海の浜千鳥は潮の満ち引きにぞ鳴く」という古歌があり、鉄舟はその古歌を知っていたので浜千鳥が鳴くのを待ったのでした。

友人宅に戻りことの一部始終を話すと、友人が言いました。「さすがはお師匠様、よくその古歌をご存じでしたね。でもお師匠様、もし浜千鳥が鳴かなかったらお師匠様はどうされましたか？」

鉄舟は唸ったままその問いに答えることができませんでした。人生に二度大恥をかいた、その一回がこの時だと後に回想しています。

問いに答えることができなかった鉄舟に向かって友人が言いました。「その時は手に握りめていた松明の灯りを海水に付けてすべて消せばよかったのです。そうすれば暗闇に目が慣れたころ遠くに漁村の灯りが微かに見えたはずです。松明は近くのものを照らす時には役に立ちますが、遠くのものを見ようとしたときには役に立たないどころか邪魔になります」

示唆に富んだ話です。私たちの人生も同じかもしれません。私たちの握り締めている灯火、それは自分の経験や知識や処世術です。そういうものは目先のものを照らすには大切ですし役に立ちますが、遠くを見渡そうとした時、このいのちがどこから来てどこへゆくのか、人生全体を見渡そうとした時には、役に立たないどころか邪魔になります。その私が握り締めている灯火ではなくて、仏さまの言葉に耳を傾けてみる。するとその言葉が光となって私を帰るべき世界へと導いてくれます。人間の知恵や経験では超えることのできない死の壁を向こう側から突き破って「この道を来なさい。死の壁の向こう側は光に満ち満ちたさとりの領域だ」と仏さまは私に呼びかけています。この呼びかけを聞き開くとき生と死を一望のもとに見渡すような心の視野が開かれます。元気なうちに仏さまのお言葉を聞いておくことが大切ですね。